

Pharmaizm

ファルマイズム

株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1

Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会

印刷：小野印刷

■ 第 143 号 ■

自治体キャラバンに参加して

弘前市

本部 阿部 由希子

11月5日(火) 自治体キャラバンで弘前市役所を訪問しました。事前に渡していた要求書や調査表を基に、疑問点や改善してほしい点などをそれぞれ質問し、意見を述べました。

弘前市において、一番大きな問題は高すぎる国保料だと考えます。協会けんぽなどの健康保険料と比べると格差が大きく家計を圧迫しているのは明らかです。また、収入が無い子どもを含めた被保険者の人数に応じてかかる均等割負担につ

青森市

本部 課長補佐 阿部 千佳子

11月5日(火) 自治体キャラバンで駅前庁舎のある青森市アウガを訪問しました。

1時間という短い時間の中で、青森県社会保険推進協議会からの青森市への要求をもとに、国民健康保険、介護保険、子育て支援のことなどについて交渉しました。

田舎館村

本部 課長 鈴木 健仁

10月30日(水) に自治体キャラバンに参加するために、私の地元でもある田舎館村へ行ってきました。当日はこちらからは11名の参加で、田舎館村からは4名の参加でした。

事前にお願ひした質問に対する回答書から、気になる部分を聞いていく形をとりました。田舎館からの回答は、概ね良いものが多く、特に医療費の一部負担金の減免制度を定めていることは他の自治体ではあまり見られ

その中の国民健康保険の部分では、「保険料の滞納世帯であっても資格証明書、短期保険証は発行しないください」という要求に対し、回答は滞納者、被保険者との接する機会のため、その中で特別な事情の有無を把握するために発行しているとのことでした。

資格証明書を発行しなくても、特別な事情を把握することは可能ではないかと感じましたし、発

青森県高齢者大会

本部 事務長 舘田 総子

10月10日(木)、リンクステーションホール青森で第21回青森県高齢者大会が開催されました。記念講演や分散会の終活セミナーなど催され、県内各地から300名を超える参加者で会場は満席でした。

オープニングは津軽伝統の「金多豆蔵」人形劇で幕が開き、強烈な訛りの津軽弁で世相を風刺した内容に会場は一気に笑いに包まれました。全体会では「どんな悪化する年金・社会保障、そのル

ないことです。また、デイスサービスの送迎バスの空いている時間を利用し、高齢者の買い物等を支援する目的で、外出支援事業を実施していることも好感がもてました。

写真紹介 藤代健生病院 健康まつり

10月19日(土) 健生病院ダイケア棟で藤代健生病院健康まつりが開催されました。藤代薬局の健康運動アドバイザーの三上さんが参加者の皆さんと椅子に座ってできる健康体操を行い、藤代薬局のブースでは、健康食品の販売を行いました。



健康運動アドバイザーの三上さん

ツ明治維新を振り返る」憲法が輝く平和な未来と青森県を」と題し、NPO法人医療制度研究会副理事長である外科医の本田宏先生が記念講演をされました。本田先生のお話は、ユーモアたっぷりで「おやじギャグ」をたくさん交え、最新の情勢とともに安倍政権が進める年金・社会保障切り捨ての内容をお話いただきました。大会の開



ユーモアたっぷりの本田医師

転げ涙が出るほど笑い過ぎた楽しい時間でした。世代間ギャップを感じさせない本田先生の勢いには、会場内の参加者が若返り元気になったのではないのでしょうか。

憲法いのち社会保障まもる 10・17国民集会に参加して

本部 阿部 由希子

10月17日(木)日比谷野外音楽堂で憲法いのち社会保障まもる10・17国民集会が開催され、2500人



青森から参加の皆さんと

以上が集まりました。

はじめに、ゲストの室井佑月さんによるトークショーが行われ、憲法について、権力者をしるため、ある憲法を権力者の都合の良いものに絶対に変えてはいけなくと強く語っていました。

次に行われたリレートークでは、医師や看護、介護の現場から長時間労働や人員不足などに関する訴えがありました。その中には台風19号の被害に

あった団体も参加して

て、まだ現状が回復していない中、悩みに悩んでこの集会に参加したと話していました。それほど、いのちと社会保障をまもることは、医療や介護、福祉の現場で働くわたしたちの使命なのだ改めて感じました。

最後に、東京駅までシュプレヒコールをしながら、パレードを行いました。今回の集会に参加し、改めて社会保障について深

ヒバクシャ国際署名をすすめる青森県民集会 「おりづるのつどい」

本部 課長補佐 阿部 千佳子

10月20日(日)青森市にある青森県社会教育センターで、ヒバクシャ国際署名をすすめる青森県民集会「おりづるのつどい」が開催されました。

今回はヒバクシャ国際署名全国連絡会事務局スタッフの鈴木慧南さんが

「繋いでいくことーわたしからあなたへー」のテーマで講演してくれました。講演の中で鈴木さんのピースボートに被ばく者の方と一緒に乗り、世界を周って被爆体験の話をも

国の方にした経験を話してくれました。その経験を聞いた現地の方は、自分が貧富の差が激しい国や1日千人が殺されるような国に住んでいるにもかかわらず、「自分たちは被ばく者の味方だ」と言ってくれたとのことでした。

最後にわたしたちがでることを、日本の歴史を知ること、被ばく者の話を聴くこと、広島・長崎に行ってみること、国際署名をすすめること、ダイベ



NPT検討会議参加者とのセッション

絶のために自分たちでできることのヒントをいろいろ話してくれ、これから活動するにあたっての大きな力をもらいました。

10月27日(日)29日(火)まで岐阜市で開催された「全日本全国青年ジャンボリー」に参加しました。今年の全国ジャンボリーは「結び人」と人、現在と未来をつなぐというテーマのもと、全国から600名以上の青年職員が集まり、交流と学習を行いました。

1日目は開会式、大交流会、SGD、夕食後は班交流を行いました。開会式では実行委員会の皆さんが作成した「憲法がなくなつた日本」というオリジナル動画が上映されました。大交流会では、人間知恵の輪、ボール渡し等、それぞれの班に分かれて、一緒に

に体と頭を使いながら交流を深めました。2日目は岐阜市文化センターで、学習講演がありました。八王子合同法律事務所、白神弁護士から「日本国憲法の歴史と9条改憲案の中身や狙い」についてのお話がありました。後悔と決意から出た戦後、戦争を完全に否定したのが憲法の始まりだと先生はおっしゃっていました。歴史を学ぶことは今を知るうえでとても重要であると、改めて感じました。



充実した3日間でした

この3日間で、岐阜と戦争との関係性や、憲法の歴史など実際に目で見て、聴いて、学ぶことでより頭の中に鮮明に残るものとなりました。また様々な方の講義や、班の皆で考えを出し合うことで、改めて憲法を身近に感じる事ができました。そして何より、大切な仲間が全国にできたということ。最終日には数日前に会ったばかりの人たちにも関わらず、とても長い時間を一緒に過ごした仲間と別れるかのような感覚になりました。この出会いを今回だけのものにはせず、これからの人生に繋げていきたいと思っています。

全日本民医連全国青年ジャンボリーin岐阜

ファルマ弘前薬局 主任補佐 佐々木 良太

10月17日(木)、弘前文化センターで「戦後政治と『原子力の平和利用』」なぜ被爆(曝)国の日本が原子力開発を始めたのか?」をテーマに市民講座が開かれ、市民らおよそ30人が参加しました。講師は弘前大学教育学部日本史研究室の大谷伸治氏でした。

講師は冒頭、イギリスの歴史学者エドワード・ハレット・カーの「歴史とは現在と過去の絶え間ない対話である」等の名言を紹介し、ソ連に対抗するためにアメリカが仕掛けた核戦略に世界で唯一の被爆国で、本来は原子力開発に反対の立場をとるであろう日本が巻き込まれていった歴史と背景について様々な文献から引用しながら詳しく紹介しました。

核燃・だまつちゃおられん津軽の会 第30回市民講座

取締役副社長 高松 利昌



講師の大谷伸治氏

全日本民医連学術・運動交流集会 in 長野

黒石薬局 津川 なつみ

10月11日(金)長野県で開催された全日本民医連学術・運動交流集会に薬剤師の西沢主任補佐と参加しました。当初は2日間の予定でしたが、台風の影響で変更となり11日のみの開催となりました。

午前は全体会、午後はポスター発表というところで「健康サポート薬局取得後の1年間の振り返り」について発表しました。健康サポート薬局に興味をもつてくださる方が多数いら

して質問を受けましたし、写真も撮っている方もいました。全国の取り組みが発表されるので多くのことを吸収しようと思っていたのですが、時間の都合上、発表を聴くことができなかったことがとても残念です。



発表をする津川さん

市民フォーラム

居宅介護支援事業所ファルマ
介護支援専門員 藤田 せい子

11月2日(土)「市民フォーラム2019」耐え難いほど正義に反する「袴田事件を問い直す」が

弘前市民会館で開催されました。

第一部「いま、袴田事件について語る」では、山崎俊樹氏が進行し、事件からの要所を袴田巖さんの姉の秀子さんが語って下さいました。第二部パネルディスカッションでは、福島至龍谷大学法学部教授が「再審制度の仕組みと課題について」、飯孝行専修大

学法学部教授が「袴田事件

を裁判員裁判の視点から考える」と題し、法的知識を教えて下さいました。

1996年に静岡県で一家4人が殺害され、「強盗殺人、放火、窃盗容疑」で元ボクサーの袴田巖さんが逮捕されました。巖さんは30歳、秀子さんは33歳で

した。連日の長時間に渡る取り調べと拷問で一旦「自白」してしまいましたが、その後は一貫して無実を訴えながらも死刑囚として48年間の獄中生活で精神変調をきたしてしまいました。「巖はもう駄目かね。」と死んでいった母、弟を思



講演する袴田秀子さん

い眠れなくなり一時的にアルコール中毒のようになった秀子さん。2014年静岡地裁で「再審開始決定」されましたが、2018年東京高裁では「再審決定が取り消し」されました。唯一の救いは再収監されなかったことで、83歳と86歳の姉弟は一緒に生活

2019年度北海道・東北地協中堅薬剤師研修会 in 札幌

ファルマ弘前薬局 主任補佐 佐藤 武志

10月19日(土)〜20日(日)札幌で開催された北海道・東北地協中堅薬剤師研修会に参加し「無料低額診療」「災害時の緊急対応」などについて学習しました。

無料低額診療について、せっかくある制度を十分に活用されていない印象が強い中、函館では民医連以外の医療機関でも活用されていることを知り驚きました。

また、医療機関によって、無料低額診療が適用さ

せています。

冤罪事件は袴田事件の他にも多数あり、獄中で亡くなってしまう方もいます。当事者の人生だけでなく、家族の人生をも大きく狂わせてしまう冤罪、冤罪者は知的障害やよそ者等社会的弱者が多いそうです。

「同じ空の下に冤罪で泣き寝入りしている人がいるときに、あなたは黙っていられるのか」「耐え難いほど正義に反する」二つの言葉が重くのしかかりました。同時に、困難さの中で闘い続け社会に影響を与えている人達の強さに敬服し、「無関心ではいられない」ことがまた一つ増えました。

れると院外調剤から院内調剤に切り替えることで患者の負担を軽減する措置を取るところもありました。

普段から経済的に苦しんでいる人を見つめるアンテナを張る必要性を感じました。

災害時については、医療機関が処方箋を発行しても、薬品不足や、薬局も被災し調剤できない状態がありヤキモキした事例や、インフラが整備されるまでもちこたえるほどの薬品・食料などが備蓄されてい

ない中、どのような

に対応したかについて学びました。

2011年の東日本大震災をきっかけに作られた災害時マニュアルは、浸水被害の場合には対応できていないのか？

マニュアルは作って終わりではなく、活用できるように普段から考えることが重要とのことでした。当薬局でも今すぐに改善できる内容もあったので、整備していく必要性を感じました。

また、いくらマニュアルを整備しても、マ



グループワークの様子

医療安全委員会学習会に参加して

黒石薬局 薬剤師 小原 晴子

10月29日(火)医療安全学習会に参加しました。薬剤師の阿保主任よりKYT(危険予知訓練)についてのお話があり、「指さし呼称」を行いました。

目・耳・腕など使うこと

により脳が覚醒し間違いが減るそうです。次は、薬剤師・事務共に一場面の絵を見てのKYTを行いました。途中笑いあいの楽しい場面もあり和やかな雰囲気の中、皆の意見を聴き予知・回避していく大切さを学びました。

その後、石川社長より調剤事故発生時の対応についてのお話がありました。

こうした組織全体で医療安全に取り組むことが、「人は誰でも過ちを犯すものである」との認識の下、過ちが起きにくく、また起きても重大な結果を招きにくい環境につながる」と感じました。



「指さし呼称」

わたしのお気に入り

ファルマ弘前薬局 薬剤師 高橋 沙鈴

私の好きなもの、それは「ディズニー」です！

ほぼ毎年東京ディズニーリゾートに行っでは、開園から閉園までハイテンションで遊び倒しています。不思議なことにディズニーにいる間はどれだけ歩いても、人混みに揉まれても疲れ知らずです。

周りから、毎年行って飽きないの？と聞かれることもあります。イースター、夏祭り、ハロウィン、クリスマス…四季をイベントで感じることができる素晴らしい。飽きることはないです。

ただ1回だけディズニーに居ながら早く帰りたいなと思ってしまったのは、年末のカウントダウンの時です。12月31日早朝に青森を出発して昼に着いてから1月1日の早朝まで遊び続けたときはさすがに疲れも眠気もピークでした。寝ずに24時間行動するって大変なんですね、睡眠の重要性を学びました。

ディズニー好きが一度は憧れるであろうキャストも楽しそうだなあ、

やってみたいなあと思うことがありますが、太陽が照りつける日も雷雨の日も常に笑顔でいるのは厳しいものがあります。エアコン、暖房が備わっている薬局は快適なので、憧れは憧れのままだしておきます笑

最近は新しいアトラクションもでき、来年にはさらに新しいエリアが完成するので、タイミングを見計らって近々遊びに行きたいと思います！



大好きなシェリーメイとダッフィー

写真紹介

わたしの生き生きサークルへ出張出前講座

10月4日(金)大成小学校地域交流室でわたしの生き生きサークル主催の出張出前講座が開催されました。講師は弘前調剤センターの津川薬局長で「薬の知らない生活習慣の作り方」をテーマに話しました。



和やかな雰囲気で行われました

参加者は17名で、とてもわかりやすかったとうれしい感想がありました。

うまれました



奏音くん

10月2日(水)ファルマ弘前薬局高橋和希薬局長補佐に男の子(奏音くん)が誕生しました。おめでとうございます！！



よろしく お願いします！

からないことばかりです。現在研修中の弘前調剤センターの先輩方が優しく丁寧な教えてくださりとても感謝しています。12月からのファルマ浪岡薬局勤務に向けて早く仕事を覚えられよう頑張ります。皆様よろしくお願ひ致します。

新人紹介

今回の実務実習で様々なことを経験させていたいただきました。最初は何もわからず、処

東北医科薬科大学 5年 成田 創

方箋を見てもどういった患者さんなのかを理解できず日々勉強不足を感じていました。

11週間の中で薬剤師の方々には学校で教わる以上のことを教えていただきました。

服薬指導や在宅指導の経験させていただいた数は他の薬局ではなかなか無いくらい多く、いろいろな会議などにも参加させていただきました。今回実習したファルマ弘前薬

局はかなり規模が大きいです。規模が大きい薬局特有の他では体験できないことを体験させてもらったことを今後活かしていけたらと思います。

津軽保健三大支部へ出張出前講座

10月14日(月)三大小学校で津軽保健三大支部主催の出出張出前講座が開催されました。参加者は25名で、弘前調剤センターの津川薬局長が「薬が知らない生活習慣～健康長寿と薬の考え方～」について話しました。難聴対策として集音器を使ったり、吹き矢や笑いヨガを取り入れたり、参加者からはとても楽しかったと好評でした。



笑いヨガでみなさん素敵な笑顔

有料老人ホーム川先へ出張出前講座

10月18日(金)有料老人ホーム川先で出張出張出前講座が開催されました。講師はファルマ弘前薬局の高橋薬剤師で「脱水・水分補給の重要性について」をテーマに話しました。14名の参加者全員から、わかりやすく勉強になったと好評でした。



やさしく丁寧に説明しました

弘前調剤センター健康教室

10月12日(土)弘前調剤センター待合室で健康教室を開催しました。参加者は10名で津川薬局長が「心と体の健康～ストレスのセルフチェック～」をテーマに話し、工藤薬剤師は笑いヨガ(笑いの体操とヨガの呼吸法を組み合わせた運動法)の講師を務めました。



笑いヨガで心も身体健康に

黒石薬局健康教室

10月12日(土)ちとせ会館で10回目の黒石薬局健康教室を開催しました。テーマは「歯科口腔ケア」をテーマに、くどう歯科クリニックの工藤康之先生より、歯周病と誤嚥性肺炎や糖尿病などの病気との関係の他、貴重なお話をいただきました。また、小原薬剤師が痛み止めと化膿止めの薬について詳しく説明しました。



参加者は11名でした

ファルマ弘前薬局健康教室

10月28日(月)ファルマ弘前薬局待合室で健康教室を開催しました。東北医科薬科大学5年生の成田創さんが講師を務め、「明日からできる生活習慣病予防」について話しました。参加者は10名で、聞きやすくて良かったと好評でした。



講師を務めた成田さん(右)

ケアネットワーク交流会

10月19日(土)岩木文化センターあそべるで津軽地域ケアネットワーク交流会が開催され、弘前調剤センター薬剤師の阿保主任が「地域での人生の最終章における意志決定の支援」をテーマに講義しました。



事例を紹介しながら詳しく話す阿保薬剤師